

本レポートはDelial.designの独立判断のための整理資料ですが、同時に、やる気に依存しない仕組み化を提示したレポートサンプルでもあります。独立や事業判断を、感覚ではなく条件で行うための設計例としてご覧ください。

事業再始動レポート

サービス公開から2029年判断までの構造整理

作成日：2026年3月21日

このレポートの目的

- ・ サービス公開を起点に整理する
- ・ 2029年 1月時点で独立可否を判断する
- ・ 独立前提ではなく条件で判断する

私は過去に個人事業主として活動していたことがありますが、

営業や集客を自力で回し続ける構造に限界があり、継続困難となった結果、会社員として再就職しました。

本レポートは、その反省を踏まえ、やる気や属人性に依存しない形へ再設計するための整理資料です。

サービスサイト公開を起点として、事業基盤、受注導線、収入、生活のバランスを段階的に整え、

2029年1月時点で独立を「できるかどうか」ではなく、「やっていけるかどうか」で判断することを目的としています。

独立は前提とせず、条件が揃っているかどうかで判断します。

なぜ「仕組み化」サービスを始めるのか

Webは作って終わりではない

Webサイトは、作って終わりではなく、運用されて初めて価値になります。

見に来た人に最新かつ信頼できる情報を届け続けられる状態であることに意味があります。

最新情報と信頼性が必要

そのためには、情報が伝わりやすいレイアウトであること、古さを感じさせないこと、そして更新する人、使う人が無理なく運用できる構造であることが欠かせません。

止まらず回る構造に価値がある

実務では、更新停止、担当の曖昧化、媒体ごとの情報分断、Webと紙の不一致といった問題が繰り返し起こりますが、これらは能力ややる気の問題ではなく、構造の問題です。

ラクに回る構造を考えるのが得意

自身もズボラな性質だからこそ、いかに少ない負担で回り続けるかを前提に、運用の仕組みを徹底的に考えてきました。本サービスでは、制作より前段にある目的の再定義、優先順位の整理、導線と役割の再設計を成果物として提供します。

なぜ2029年に判断するのか

- ・ 3年間の検証期間を確保できる
- ・ 子どもの進学前に判断したい
- ・ 家庭と雇用の両面で変化リスクがある

2026年から着手すれば、2029年1月まで約3年間の検証期間を取ることができます。

この間に確認したいのは、収入の再現性、受注導線が機能するか、継続案件が成立するか、生活と両立できるかの4点です。

2029年は子どもの進学前後にあたり、家庭の生活リズムが変わる節目です。

また、勤務先の先行きには不確実性があり、夫も激務を長く続けられる状況ではありません。

今後は、収入の柱を徐々に私側へ移していく形が、家庭全体として無理が少ないと考えています。

その移行を見極めるための判断時点を、2029年1月に設定しています。

2029年1月は独立の達成日ではなく、条件が揃ったかを見極める判断時点として置いている。

現在地

現状

- ・ 時短正社員と副業を並行
- ・ 副業の稼働は平日夜と土曜日中心
- ・ WebとDTPを横断して設計・運用できる
- ・ サービスは公開直後
- ・ 事業基盤は整備途中

前提条件

- ・ 今回の場合、やる気の有無は課題ではない
- ・ 時間制約の中でどう構造化するかが課題
- ・ Webと紙媒体を含めて統一感を持たせる
- ・ 自由維持のため顔出しせず似顔絵で運用

全体の課題

結論:問題はやる気ではなく、時間制約と構造にある。

課題1

雇用継続の不確実性がある

現在本業としている勤務先では業務縮小が進んでおり、今後の雇用継続には不確実性があります。

そのため、現職を前提にしたまま受け身で構えるのではなく、働き方の選択肢を持てる状態をあらかじめ整えておく必要があります。

課題2

営業が仕組み化されていない

過去の個人事業主時代は、営業や集客を自力で回し続ける必要がありましたが、継続的に受注へ繋がる導線や再現性のある仕組みを整えられていなかったため、案件獲得が属人化し、継続が難しくなりやすい状態がありました。

課題3

稼働時間に制限がある

本業と並行する場合、平日夜と土曜日が主な稼働時間です。

育児、本業、体調を無視した進め方では継続できないため、限られた時間の中で回る構造が必要です。

改善方針

基本方針

- ・ 勢いではなく、条件が揃っているかで判断する
- ・ 営業や集客を自力で抱え込みすぎない構造を先に作る
- ・ 生活、通院、体調変化と両立できる形を前提にする

設計方針

- ・ サービス導線を一本化する
- ・ WebとDTPを一貫した構造で設計する
- ・ 納品物の型を先に整える
- ・ お金と運用の流れを曖昧にしない

目指す状態

- ・ 無理を前提にしなくても継続できる
- ・ 営業や運用が止まりにくい
- ・ 独立可否を条件で判断しやすい
- ・ 改善を重ねやすい状態

フェーズ設計

Phase1(2026.3) 公開と土台づくり

目的

サービスを公開し、受け皿を整える

やること

- ・ サービスサイト公開
- ・ 相談フォーム運用開始
- ・ サービス説明文の確定
- ・ 納品レポートの型整備
- ・ 見積書、請求書、メールテンプレ整備
- ・ 非顔出し運用とブランド統一の整理

見るポイント

- ・ サイト公開まで自力で着地できるか
- ・ 相談導線が破綻なく回るか
- ・ 納品物の型が再利用可能か

Phase2(2026.4~2027) 事業基盤の整備

目的

受注しても破綻しない裏側を整える

やること

- ・ 事業用口座とクレジットカードの整理
- ・ 会計ソフト導入と運用開始
- ・ 青色申告運用の定着
- ・ 請求名義とブランド名の整理
- ・ 生活費と事業費の分離ルール策定
- ・ インボイス取得要否の判断

見るポイント

- ・ 受注後の経理処理で迷わないか
- ・ お金の流れを後から追えるか
- ・ 生活費と事業費が混ざらないか

Phase3(2027~2028) 実績と導線の検証

目的

継続可能な事業か、実績ベースで判断

やること

- ・ 相談数、受注率、作業時間を把握する
- ・ 事例を蓄積する
- ・ 集客経路ごとの件数を把握する
- ・ 単価と提供範囲を見直す
- ・ 受注数に応じて、本業と副業の時間配分を再調整する

見るポイント

- ・ 受注の流れに再現性があるか
- ・ 時間に対して採算が合うか
- ・ 続けるほど運用が軽くなる構造か

Phase4(2028.7~12) 独立判断と移行準備

目的

独立または継続雇用を判断する

やること

- ・ 収入の安定性を確認する
- ・ 継続案件の見込みを確認する
- ・ 生活防衛費の貯蓄状態を確認する
- ・ 家族との合意形成を行う
- ・ 独立するか、継続雇用とするかを決定

見るポイント

- ・ 独立後も生活が回るか
- ・ 体調を崩さず続けられるか
- ・ 独立そのものが目的化していないか

独立判断チェックリスト

1. 収入・お金まわり

- 副業収入が本業手取りの50%以上の月が3ヶ月連続している
- 必須** 副業収入が本業手取りの25%以上の月が6ヶ月連続している
- スtock収入が月1万円以上ある状態が3ヶ月続いている
- 単月ではなく「平均月商」を算出している(過去6ヶ月)
- 必須** 生活費6か月分以上の貯金がある
- 必須** 税金、保険料など、独立後に発生する負担額を把握している

2. 仕事の見通し

- 必須** 次の3ヶ月以内に発生予定の案件が2件以上ある
- 相談から受注までの流れが言語化できている
- 必須** サイト、フォーム、導線が機能し、3件以上同じ導線で受注
- 「問い合わせ→受注までの流れ」を文章化している
- 事例が10件以上蓄積されている

3. 健康・生活基盤

- 必須** 週1日は完全非稼働日が確保できている
- 睡眠時間6時間以上の日が週4日以上ある
- 必須** 体調変化時に稼働量を調整できる
- 体調不良による稼働停止が月1回以内
- 子どもの小学校進学後の生活変化に対応できる見込みがある

4. 心の準備

- 収入変動に対して不安定にならない貯蓄がある
- 月次で収支を自分で確認・判断している
- 独立そのものが目的化していない
- 「独立しない選択肢」も含めて判断基準を書き出している

5. タイミング・外的条件

- 市場や需要の手応えがある
- 必須** 家族の理解を得ている
- 独立後の1日のスケジュール案を作成済みである
- 子どもの体調不良や行事発生時の対応パターンを想定できている
- 家事・育児と仕事の役割分担について、大枠の合意がある
- 繁忙期に無理なく増やせる稼働時間の上限を把握している

判断基準: チェック18個以上、かつ必須項目をすべて満たした場合に、独立を現実的に検討できる

まとめ

この3年間で確認したいのは、独立できるかどうかだけではなく。

収入や受注の再現性があるか、無理なく続けられるか、
生活と両立できるか、消耗ではなく積み上げにつながるかを確認したいと考えています。

2029年1月は、夢を叶える日ではなく、
独立してやっていける条件が揃ったかを判断する日として置いています。